

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 令和2年度研究評価結果（事前評価）

令和3年度新規重点研究の提案課題

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				意見	理事長の評価結果
		必要性 ・ 緊急性	適切性	研究計画の 可能性	成果の活用 可能性		
北海道の気候に適した牛舎の機械換気システムの開発							
○酪農試験場 北方建築総合研究所 (R3-R5)	a	b	b	B	畜舎の特性を踏まえたシミュレーション手法を検討するとともに、乳量の維持にとって最適な環境の確保と、周辺環境の影響に留意して、研究成果が適用できる条件を明確にすること。	B	畜舎の特性を踏まえたシミュレーション手法を検討するとともに、乳量の維持にとって最適な環境の確保と、周辺環境の影響に留意して、研究成果が適用できる条件を明確にすること。
リモートセンシングと圃場情報を活用した干湿害多発農地の診断手法の開発							
○中央農業試験場 十勝農業試験場 北見農業試験場 (R3-R6)	b	b	b	B	土壌診断に関する最新の研究手法をレビューして進めること。基盤整備事業だけでなく、小規模圃場管理への成果の活用も検討すること。	B	土壌診断に関する最新の研究手法をレビューして進めること。基盤整備事業だけでなく、小規模圃場管理への成果の活用も検討すること。
気象データを活用したバレイシヨ疫病の初発前薬剤散布指示システムの開発							
○道南農業試験場 (R3-R5)	a	a	a	A	北海道の主要作物であるジャガイモの疫病防除対策として、緊急に実現すべきシステムである。既存の気象データを有効活用する適切な計画である。生産者の信頼や利便性を高める方法を検討すること。	A	研究評価委員会の評価を踏まえ、確実に成果を得よう生産者の信頼や利便性を高める方法を検討すること。
道産ガゴメの生産性を向上する促成養殖生産システムの開発							
○函館水産試験場 中央水産試験場 (R3-R6)	a	b	a	A	ガゴメ資源の枯渇が危惧されており、簡易成熟誘導装置の開発を急ぐ必要がある。漁業者の増収につなげるために、種苗生産と促成養殖の全体について収益性を検討すること。	A	研究評価委員会での緊急性の指摘を踏まえ、漁業者の増収につなげるために、種苗生産と促成養殖の全体について収益性を検討すること。
貝類の循環濾過蓄養システムの開発							
○網走水産試験場 中央水産試験場 林産試験場 釧路水産試験場 (R3-R5)	b	b	b	B	循環ろ過の装置設計に必要な変数を明らかにしつつ研究を進めること。既存の特許に対する優位性を持たせ、権利化できるよう研究を進めること。	B	循環ろ過の装置設計に必要な変数を明らかにしつつ研究を進めること。既存の特許に対する優位性を持たせ、権利化できるよう研究を進めること。

(つづき)

北海道産農産物を活用したロングライフチルド食品の製造技術開発						
○食品加工研究センター 中央農業試験場 (R3-R5)	b	b	b	B	既存技術の評価を十分に行った上で、道産食材の魅力が高いレベルで維持されたLLC食品となるよう、「おいしさ」の評価を的確に行うこと。カレー以外の食品への適用や加工用素材製品への展開について、具体的な事例やレシピを提示するなど、研究成果の水平展開を意識した研究を進めること。	B 既存技術の評価を十分に行った上で、道産食材の魅力が高いレベルで維持されたLLC食品となるよう、「おいしさ」の評価を的確に行うこと。カレー以外の食品への適用や加工用素材製品への展開について、具体的な事例やレシピを提示するなど、研究成果の水平展開を意識した研究を進めること。
樹木芳香成分の機能性評価と疑似森林空間への活用手法の開発						
○林業試験場 エネルギー・環境・ 地質研究所 (R3-R5)	b	b	c	C	面白い着想であるが、森林浴の効果が芳香のみでなく様々な要因で発揮されることを踏まえ研究計画を見直すこと。実証試験については、ブランク区分の設定など、適切な実験計画となるよう見直しを行うこと。研究成果の活用方法について、デジタル森林浴以外の展開についても検討すること。	C 森林浴の効果が芳香のみでなく様々な要因で発揮されることを踏まえ、他の要因との関係を含めた研究計画に見直すこと。実証試験については、ブランク区分の設定など、適切な実験計画となるよう見直しを行うこと。研究成果の活用方法について、デジタル森林浴以外の展開についても検討すること。
製材からプレカットまでを行う垂直統合型・垂直連携型事業体の成立条件の解明						
○林産試験場 林業試験場 (R3-R5)	b	b	b	B	垂直型に関する国内の事例を収集して課題を抽出するとともに、関係機関との協力体制を構築すること。企業間の利害関係を越えて事業構造を変えていくスキームを明確にするとともに、採算性評価の意義を見直すこと。	B 垂直型に関する国内の事例を収集して課題を抽出するとともに、関係機関との協力体制を構築すること。企業間の利害関係を越えて事業構造を変えていくスキーム及び採算性評価の意義を明らかにするとともに、成立条件の解明に留まらず、道内企業が垂直型を実現するための道筋を提言すること。
IoT 金型と加工状態推定・補正技術による高品質板金加工システムの開発						
○工業試験場 (R3-R5)	b	b	b	B	広く道内の機械関連産業への活用を視野に、求められる加工品質を明確にして研究を進めること。部分的、段階的な導入が可能なシステム構成など、初期投資の軽減や事業採算性を考慮した、導入しやすいシステムの開発を目指すこと。	B 広く道内の機械関連産業への活用を視野に、求められる加工品質を明確にして研究を進めること。部分的、段階的な導入が可能なシステム構成など、初期投資の軽減や事業採算性を考慮した、導入しやすいシステムの開発を目指すこと。
北海道産火山ガラスの高度利用による高性能コンクリートの開発						
○北方建築総合研究所 (R3-R6)	b	c	b	B	重点研究は道総研が主体の研究課題であることを踏まえ、共同研究機関との役割分担、成果の普及方策について検討すること。	C 重点研究は道総研が主体の研究課題であることを踏まえ、共同研究機関との役割分担、成果の普及方策について見直すこと。